

多 摩 な び

 **放送大学** 東京多摩学習センターだより第27号 2022年4月発行



「多摩の風景 10－紫陽花山－」 齋藤文孝

発行 放送大学東京多摩学習センター 〒187-0045 東京都小平市学園西町 1-29-1

TEL : 042-349-3467 E-mail : tama-sc@ouj.ac.jp URL : <https://www.sc.ouj.ac.jp/center/tama/>



ようこそ、東京多摩学習センターへ！

東京多摩学習センター所長
五味 政信



放送大学へのご入学、おめでとうございます！

学生の皆さんお一人お一人がそれぞれの学びを確実に前に進め、所期の目的が達せられるよう、私たち教職員全員でサポートする体制を整えていますので、皆さん、存分に学び、研究し、教員や学友と議論していただきたいと思います。

放送大学には全国で約9万人の学生が在籍し、全国にある50の学習センターに所属して勉学・研究に励んでいます。私たちの東京多摩学習センターは、2002年に50番目に創設された若い学習センターで、昨年11月現在、3,659名の学生の皆さんが在籍しており、全国で7番目前後の規模をもつ学習センターとなっています。

放送大学の最大の特徴は「多様性」にあると言われます。在籍する学生の皆さんが、年齢構成も職業構成も多様性に富んでいるという点での「多様性」とともに、授業科目、担当教員の「多様性」も私たちの大学を特徴づけています。放送大学は、教養学部の中に教養学科があるという、いわゆる単科大学ですが、皆さんのお手元に届いている『面接授業開設科目一覧』の授業科目名を見ただけでも、科目の構成は総合大学のようにも感じられ、学べる科目が多岐にわたっていることが分かります。

「教養」という語は急速に変化する現代社会において、たいへん重要な語となっています。立命館アジア太平洋大学学長の出口治明氏は「今後、どの仕事がなくなり、どんな新しい仕事が出てくるかは誰にも予測できませんが、『考える力』や『探求する力』『問いを立てる力』がもっと必要になるのは確かです」と書いています（『自分の頭で考える日本の論点』幻冬舎）。また、出口氏は別の本で、教養とは人生を面白くするツールであり、生き抜くための最強の武器だということも述べていますが、この「教養」こそが「考える力」や「探求する力」「問いを立てる力」の源であると思います。皆さんが放送大学で多くの知識を獲得し、それらを有機的に結び付け教養に昇華することを実現するお手伝いができるよう私たちは準備しています。

この3月に東京多摩学習センターから巣立った学部卒業生、大学院修了生の合計は229名でした。

以下に昨年の卒業生、Nさんからの手紙を紹介します。

「放送大学で学んだことを活かし、教養学部学士」とともに「学位授与機構で看護学の学士、心理コースで認定心理士も取得」「放送大学のおかげで、私の人生は何倍にも大きく広がり…まるで夢のようで、放送大学での学習、面接授業は楽しくて仕方ありませんでした。」

Nさんが放送大学での学びを楽しみ、自らの人生を切り拓き、所期の目的を達せられたことは、私たち教職員の喜びでもあり、大いに励まされることでもあります。コロナ禍の中ではありますが、東京多摩学習センターをできる限り活用していただき、新入生の皆さんがそれぞれの学びを前進させ、その喜びを私たちも共有できることを心から願っています。





就任のご挨拶

東京多摩学習センター客員教授 森川 馨（もりかわ・かおる）

東京多摩学習センター客員教授を務めることになりました森川です。これまで世界の医薬品の副作用症例報告など大規模医療データの解析をやってきました。私は放送大学の開設当初から、放送大学を視聴し多くのことを学んできました。初めて放送大学に出会った時のことを今でもよく覚えています（長坂健二先生の講義で素晴らしい内容でした）。

私は研究所を退官後、晴れて放送大学に入学し、現在学生でもあります。放送大学は、多くを学べる貴重な場であり貴重な機会であると思います。また放送大学で学ぶ仲間の層は厚く多様です。是非一緒に学ぶ仲間を作り、放送大学での時間を実り豊かなものにして頂きたいと思います。多摩学習センターの「パソコン教室」を担当しています。これまでの経験を生かし、皆さんにパソコンに親しんで友達になってもらおうと考えています。午前に初心者コース、午後に中級コースを行っています。多摩ゼミでは「パターン認識と機械学習」を勉強します。これらの機会を通じ、皆さんと楽しく勉強していきたいと思っています。



東京多摩学習センター客員教授 中野 知律（なかの・ちづ）



今年度、東京多摩学習センターで客員教授をつとめます中野知律でございます。専攻はフランス文学、20世紀の小説家マルセル・ブルースト（1871～1922年）を研究してまいりました。ブルーストは、繊細な言葉を通して、ベル・エポックの華やかさとドレフュス事件から第一次大戦に至る社会の激動を深く見つめた骨太の作家です。面接授業で、また多摩ゼミで、『失われた時を求めて』の世界をご一緒に読み解いていきたいと思っています。静かな武蔵野の地のキャンパスで、真摯にそしてエネルギーに学びに向き合う学生の方々と出会えますことを楽しみにしております。



就任のご挨拶



東京多摩学習センター客員准教授 姫野 敦子（ひめの・あつこ）

この度、東京多摩学習センターの客員准教授に就任しました姫野敦子と申します。本務校は品川区の清泉女子大学という小規模の大学です。この学習センターには、2014年から断続的に客員教員を務めております。

私の専門分野は、日本の中世の歌謡文学という分野です。主に、室町時代後半の「小歌」と呼ばれた流行歌を研究しております。

古い時代の流行歌は、歌詞が書き留められずに消えていくものも多いのですが、この歌謡は『閑吟集』（1518年成立）という歌謡集に残ることができました。内容は、恋愛についてのものが多く、俗と雅の入り混じった世界が展開されています。

また、「小歌」は同時代の芸能、「能」と共通する音楽的要素があったらしく、『閑吟集』には能の一部が収録されています。今回、多摩ゼミで読む「俊寛」の一部も収録されています。当時の人々は、どこに小歌的なものを感じたのか、考えてみたいと思っています。

どうぞ、よろしくお願いいたします。



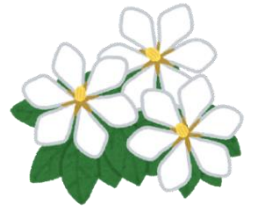
東京多摩学習センター客員教授 太田 陽子（おおた・ようこ）

今年度より、東京多摩学習センターで、客員教授を務めることになりました太田陽子と申します。専門は日本語教育学です。日本語を母語としない学習者の目には、日本語という言葉がどのように映るのかに興味を持って、研究をしています。たとえば、みなさんは、「とうとう完成した」と「やっと完成した」の違いをわかりやすく説明できますか。「ごめん、消しゴム貸して」の「ごめん」が、国によっては友だちを悲しませってしまうと想像したことがあるでしょうか。学習者の目を通すと、ふだん何気なく使っていることばが違った形で見えてきます。

本年は、前期に「ことばを見つめる—日本語学へのアプローチ」という多摩ゼミを、後期に「日本語学概論」を担当する予定です。授業では、これまで出会ったさまざまな学習者から私が学んできたことに触れつつ、ことばについて、コミュニケーションについて、みなさんと一緒に考えていけたらと思っています。



退任のご挨拶



東京多摩学習センター客員教授 佐藤 正広（さとう・まさひろ）



4年間、客員教授を務めさせていただきました。その間、対面授業の他、多摩ゼミ、学習相談でも、学生さんと直接接する機会がありました。

多摩ゼミは、人数は少なかったけれども、みなさん一生懸命に学習しようという姿勢が感じられて、心強く感じました。井上幸治『秩父事件』を取り上げて、本の構造をどう読むかという勉強をしました。

学習相談はまさに人それぞれの研究テーマ取り扱いましたが、中にはかない難しい研究テーマに、真っ正面から取り組む人もあって、感心させられました。

対面授業は今年度も実施させていただきます。

放送大学は、他の大学とことなり、実にさまざまな背景を持った人々が学生として学習をしています。そのことによって、他の大学では得られない「学び」の機会が存在すると思います。学生のみなさんには、この点を自覚して、食欲に知識を吸収していただきたいと思います。

4年間、ありがとうございました。



東京多摩学習センター客員教授 糟谷 啓介（かすや・けいすけ）



このたび放送大学客員教授の職から退くことになりました。一年という短い期間でしたが、みなさんにはたいへんお世話になりました。心より感謝申し上げます。一昨年にもまして、この一年は新型コロナウイルスの影響を大きく被りました。教育機関も例外ではなく、オンライン授業などのさまざまな不便に対応せざるをえませんでした。年度当初は学習センターに赴くことはできましたが、閑散とした校舎を見て寂しくなりました。その後はさらなるコロナ禍の拡大によって、学習センターが休校になる時期もありました。しかし、いまや少しずつ明るさが見えてきているのも事実です。そんななか、学習センターでの学びがみなさんの生活を支える一助となることを願っています。なお、面接授業はまだ続けますので、みなさんとお会いできる日を楽しみにしています。

このたび放送大学客員教授の職から退くことになりました。一年という短い期間でしたが、みなさんにはたいへんお世話になりました。心より感謝申し上げます。一昨年にもまして、この一年は新型コロナウイルスの影響を大きく被りました。教育機関も例外ではなく、オンライン授業などのさまざまな不便に対応せざるをえませんでした。年度当初は学習センターに赴くことはできましたが、閑散とした校舎を見て寂しくなりました。その後はさらなるコロナ禍の拡大によって、学習センターが休校になる時期もありました。しかし、いまや少しずつ明るさが見えてきているのも事実です。そんななか、学習センターでの学びがみなさんの生活を支える一助となることを願っています。なお、面接授業はまだ続けますので、みなさんとお会いできる日を楽しみにしています。



東京多摩学習センター客員教授 小泉 順也（こいずみ・まさや）



短い期間でしたが、東京多摩学習センターの客員教授としてお世話になりました。コロナ禍の影響で出勤しない時期もあり、またたく間に時は過ぎていきました。振り返ると、キャンパスの正門を通るたびに建物と空のコントラストを確かめ、周りにある樹々を眺めては季節を感じていました。着任時の挨拶では、近場にある小平市平櫛田中彫刻美術館、小平市ふれあい下水道館に言及しました。いまは帰りに何度か寄り道をしたことが思い出されます。小平市

中央図書館には、ブリヂストンから寄贈されたという雌雄のライオンの剥製がありました。その近くの店頭には、「小平」という日本酒の銘柄が置かれていたのも大きな驚きでした。それは実のところ、小平市の姉妹都市である北海道の小平町（おびらちょう）で製造されたものだったのですが。ちょっとした路地や裏道に小さな発見は潜んでいるものです。学習センターへの通学の折々に、そのような経験を積み重ねてほしいと思います。

令和3(2021)年度の東京多摩学習センター

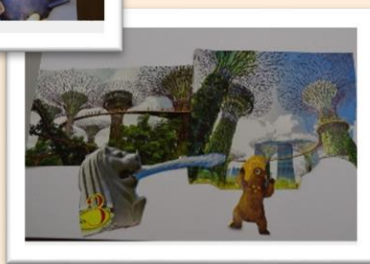
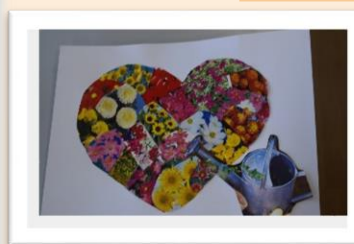
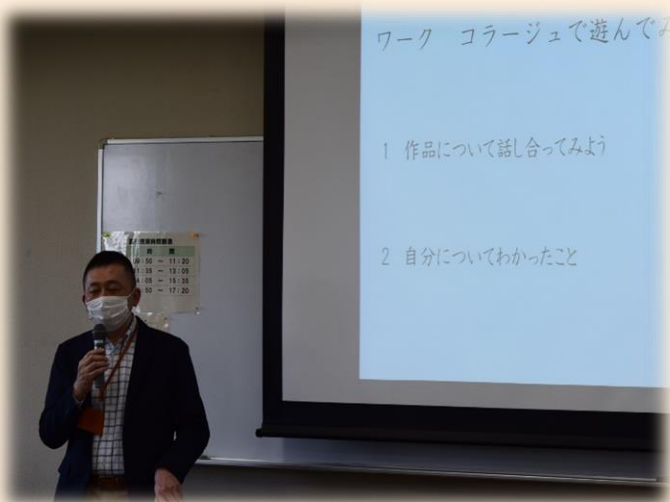
コロナウイルス感染症拡大防止対策として様々な規制がかり、
学生の皆様へご不便とご迷惑をおかけした一年となってしまいました。
そのような年でしたが、ここでは面接授業・多摩ゼミ・式典などをご覧ください。

面接授業風景

- ◆ 令和3(2021)年度 第1学期：[対面] 6科目 開講
 : [Zoom] 31科目 //
- : 22科目 閉講
- ◆ 令和3(2021)年度 第2学期：[対面] 57科目 開講
 : [Zoom] 3科目 //
- : 1科目 閉講



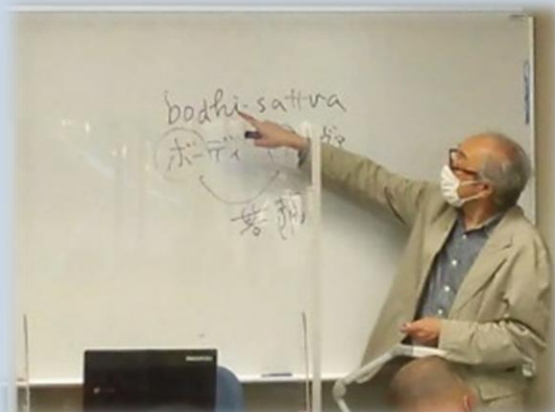
2021,4,23
臨床心理学演習
波田野 茂幸 先生



2021,10,2
デッサン演習
木嶋彰 先生



2021,10,20
姿勢と健康
清水哲也 先生



2021,11,31
仏教入門
金沢篤 先生

2021,11,4
太極拳
石水極子 先生



2021,10,27
多摩ゼミ
深山治久 先生



式典関係

- ◆ 令和3(2021)年度 第1学期：[入学者の集い]・[卒業証書/学位記授与式] 中止
- ◆ 令和3(2021)年度 第2学期：[入学者の集い] Zoomにて開催
- ◆ 令和3(2021)年度 第2学期：[卒業証書/学位記授与式] 本部主催で開催(国技館)



[令和3(2021)年度第2学期 入学者の集い] Zoomにて開催 2021年10月3日(日)



■今号の表紙について

＜作品詳細＞「多摩の風景 10-紫陽花山-」2022年、274×194、水彩紙、鉛筆、色鉛筆、水彩
 ＜作 者＞東京多摩学習センター図書室・視聴学習室担当職員 齋藤文孝（さいとう ふみたか）
 ＜絵について＞

梅雨ということばは、梅の実が熟する頃からきており、雨の少ない空梅雨は、真夏の田や人のくらしに影響を及ぼす。植物や人のくらしにとっては、雨沢の梅雨でもある。紫陽花は、そんな梅雨の季節をかざる花だ。長雨の中にくらす人々を励ますように、大地をいろどる紫陽花は、梅雨の魅力である。ことばに学ぶ。

日野市にある高幡不動尊は、長い歴史をもった古刹として大変有名なお寺である。丘陵と一体となった境内には、様々な花木が育ち、中でも梅雨の時期には、170種類以上もの紫陽花が山内を覆いつくす事でも有名である。色や形も実に多様な紫陽花が、点を並べていくように、山内の隅々までをいろどる紫陽花山の風景には圧倒される。全身に清き雨露を身につけて、陽の光を受ける紫陽花の姿に、ひとときの生命の輝きを感じた。

スケッチをおえ、山道を降りていくと、紫陽花や木々の間から五重塔が見えてきた。境内を温かく見守る柱のような塔を前にし、歩んできた道を振り返りながら、不動尊が与えて下さった梅雨の恩恵に感謝した。

今年も、もうしばらくで恵みの梅雨を迎える。

(図書係：齋藤)